



# 希望を胸に...

## 会津北嶺高等学校の 卒業証書授与式

3月1日、会津北嶺高等学校の卒業証書授与式が同体育館で開催され、普通科総代 船田雪華さん、機械科総代 井上賢吾さんが、石山裕司校長より卒業証書を受け取った。席上、石山校長は式辞の中で卒業生に対して、

この3年間の部活動や勉強、多くのボランティア活動などイベントの参加に賛辞を述べた後に「花向けの言葉として、為せば成る」と言う言葉。この言葉は今から約200年前江戸中期の大名出羽米沢藩9代藩主で屈指の名藩主として有名な上杉鷹山公が家訓として残されたもの。目的を立てその身になってやればどんなことでもできるという強い意志の大切さを教えている言葉。これからも

さらに頑張ってほしい」と述べた。なお、在校生代表の遠藤聖和さんが送辞、卒業生代表の小椋結月さんが答辞を述べ、卒業生はそれぞれの希望を胸に学舎を後にした。同校は、昨夏の高校野球福島県大会においては40年振りに会津から決勝に進み、輝かしい準優勝を遂げた。また、実用英語技能検定では、5年連続でカナダ大使賞やアメリカ大使賞に輝いた。

3月3日、台湾・台中市の僑泰高級中学の生徒37名と教員4名が会津北嶺高校を訪れ、国際交流が行われた。当日は歓迎式からスタート。両校長のあいさつや記念品交換のほか、台湾生徒によるK-POPダンス披露、同校ハンドベル部による歓迎演奏と校歌斉唱が行われ、会場は温かい拍手に包まれた。

なお、同校では今後も国際理解教育を推進し、海外との交流を積極的に行っていく予定とのこと。

## 台湾の高校生と 国際交流